

Slovenia Monthly January 2022

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2022年2月28日



～1月の主なポイント～

内 政： ゴルチッチ国民議会議長を党首とする自由民主党(LIDE)の設立
ゴロブ前GEN-I社長、緑の党(「自由運動」)の新党首に選出
外 政： ヤンシャ首相がインタビューで中国批判・台湾支持の発言
経 済： トヨタ・ヤリスクロスのカーオブザイヤー受賞
スポーツ： 高梨沙羅、スキージャンプ・ワールドカップで優勝

政治

【内政】

●デジタルトランスフォーメーション戦略【6日】

政府は、2021年から2030年にかけての経済のデジタルトランスフォーメーション戦略を採択した。本件は復興・強靱計画の下での改革措置の1つで、欧州委員会のデジタル経済社会指数(DESI)がランク付けしている高度なデジタル技術の使用において、最初の2年間で上位5位に、2030年までに上位3位に入ることが目標とされている。

●内務大臣と副大臣の辞任を求める調査結果【10日】

警察業務への政治的干渉の疑いを調査していた議会の委員会は、非公開の会合を開き、中間報告書と、ホイス内相と両内務副大臣に対し、辞任を促すことを提案する決議案を採択した。この6カ月間、委員会は20人の証人から聞き取り調査を行った。野党LMSのメドヴェド委員長は、10日の会合の後、報道陣に対して、委員会が入手したインタビューと文書から、スロベニア警察では政治の指示の下に物事が進められていることが確認されたと述べた。

●独立市長クラブの結成【10日】

スロベニアの212人の市長のうち57人が、ツェリエの東に位置するシェントウルで会合し、プレビリッチ・コチェウイェ市長の発案で「独立市長クラブ」を結成した。同クラブは、スロベニアで総選挙の年である今年、3つの選挙にそれぞれどのように参加するかはまだ決まっていない。また、同クラブは市長の国会議員就任の禁止を撤回するよう働きかけたいとしている。

●ヤンコヴィッチ・リュブリャナ市長及び子息への無罪判決【11日】

ヤンコヴィッチ・リュブリャナ市長とその子息2人は、2006年の小売業者メルカトルの株式の売却に関する脱税疑惑をかけられていたが、1ヶ月に渡る裁判の後、裁判所は無罪の判決を下した。メルカトルの元CEOであるヤンコヴィッチ市長は、同族会社への47,000株のメルカトル株の売却で脱税の罪で起訴され、市長の2人の子息は教唆の罪で起訴された。ヤンコヴィッチ市長は無罪判決を期待していたと述べたが、検察側は上訴を発表した。

●ゾルチッチ国民議会議長を党首とするLIDEが設立【12日】

新党「自由民主党(LIDE)」が設立され、ゾルチッチ国民議会議長が最大3人となる党首のうちの1人として選出された。リベラルな価値観を推進し、ミドルクラスの強化を目指していく。党大会はまた、党の綱領を採択し、ゾルチッチ議長は、同党は中道左派の特徴を持つようになる」と述べた。

●石炭廃止戦略の採択【13日、17日】

政府は、石炭を段階的に廃止し、公正な移行原則に従って炭鉱地域を再構築するための国家戦略を採択した。同文書は、電力生産に使用される石炭が遅くとも2033年までに完全に廃止されることを想定している。TEŠ火力発電所と炭鉱オペレーターのPremogovnik Velenjeは、グリーントランスフォーメーションは要求レベルが高く、責任ある仕事であり、そのプロセスに積極的に関与すると述べた。

17日、炭鉱の町であるヴェレニエ市は、政府の示した、2033年までに石炭を排除するとの政策を、非現実的であり、より野心的な職業戦略を要請した。炭鉱関係者の労働組合も、政治的で、プロフェッショナルでなく思いがけないものだと政府の決定に失望を表明している。

●GZS、エネルギー価格の高騰に対し、企業への即時支援を要請【14日】

商工会議所(GZS)は政府に対し、エネルギー価格の高騰に対処する企業を直ちに支援するよう要請した。同会議所によると、企業は政府の支援策と、温室効果ガス排出の間接コストに対する補償及び払い戻しを導入する政令を期待している。

●フランスのEU議長国としての優先事項が国会に提出【14日】

フランスのEU議長国としての優先事項が、国民議会のEU問題・外交政策委員会で発表された。フェラーリ駐スロベニア大使は、この6カ月間に行われたスロベニア議長国としての働きについてスロベニアに感謝の意を表明し、スロベニアのEU議長国就任期間中の両国の協力関係を賞賛した。フランスは、EU議長国トリオのパートナーであるチェコおよびスウェーデンとともに、スロベニアを含む前回のEU議長国トリオが設定したプログラムを基に活動を展開する予定である。

●ポドゴルシェク農相、次期総選挙でNSiから出馬へ【18日】

ポドゴルシェク農相は、次期総選挙で新スロベニア(NSi)から出馬することを表明し、同党が政治的安定をもたらすと述べた。同党のトニン党首は、専門家や

党の政策を実現したい人々に門戸を開いていると述べた。

●腐敗認識指数【25日】

スロベニアはトランスパレンシー・インターナショナルが発表した2021年の腐敗認識指数において180か国中41位となった。昨年から6位後退となり、2013年以来最低の結果となった。同組織のスロベニア支部は、これは汚職防止が政治的限界に押しやられ、改革が失敗した結果であると述べた。また、スロベニア汚職防止委員会はその結果を驚きとは見なしていないが、スロベニア法務省は、ランキングが必ずしも国の実際の状況を反映しているとは限らないとしている。

●外国人労働許可申請の増加【25日】

2021年の外国人の労働許可申請は記録的な増加となり、全部で52,281件の申請があり、そのうち46,264件が承認された。申請数は2015年に現在のシステムが導入されて以来最多となる。

●ゴロブ氏、緑の党の新党首に選出【26日】

エネルギー商社Gen-Iの元社長で、次期総選挙でヤンシャ首相の最大のライバルと目されているゴロブ氏が、緑の党「Z.Dej」の党首となり、党名は「自由運動(Freedom Movement)」に改められた。ヤンシャ首相はゴロブ氏の政界進出について、「ゾラン・ヤンコヴィッチによる再試験」とコメントしている。これは、ゴロブ氏が2011年にリュブリャナ市長のヤンコヴィッチ氏が結成した政党「積極的なスロベニア」の副党首になり、2011年総選挙で勝利したものの政権を築くことはできなかったことを指しており、代わりにヤンシャが政権を樹立した。

●レナルチッチ欧州委員の総選挙に関する発言【28日】

スロベニア選出のレナルチッチ欧州委員会委員は、4月のスロベニア総選挙において、法の支配などEUの基本的価値を心から支持する勢力が勝利することを願っていると表明し、過去に経験したような一党支配の復活に警鐘を鳴らした。同委員はブリュッセルでのインタビューにおいて、EUは単なる単一市場ではなく、価値観の連合体であり、すべての加盟国が伝統的価値観や歴史的経験に基づいて法の支配について独自の見解を持つことは不可能であると述べた。

●1億600万ユーロのエネルギーバウチャー制度、物品税の引き下げ、ネットワーク料金の引き下げ【29日】

政府は、エネルギー価格の上昇への対応として、家庭と企業向けに2億ユーロの支援策を発表した。

家庭向けの1億600万ユーロのエネルギーバウチャー制度に加え、企業および農家向けの7,000万ユーロの援助、さらに電力ネットワーク料金の引き下げ、暖房用オイルおよびガソリンの物品税の引き下げを予定している。物品税とネットワーク料金の引き下げは2月から3カ月間実施され、エネルギー券と企業・農家への支援は一回限りの支給となる。個人向けには71万人がエネルギー券の恩恵を受け、約1万7,500の企業と約4万1,000の農家が支援の対象になると推定されている。

31日、同政府の発表を受けて、商工会議所はエネルギー価格高騰への対応策として歓迎しつつ、より迅速な対応が取られていれば良かったとした。手工業・小規模ビジネス会議所はパッケージが不公平だとして商工会議所に比べて不満を示した。

野党もパッケージ自体を歓迎したが、数か月前に実現しているべきだったこと、また人口のいくつかのグループをカバーしていないことを批判した。

【外政等】

●パホル大統領の北京冬季五輪開会式への不参加【5日】

パホル大統領は2月4日に行われる北京五輪開会式について、新型コロナウイルスの状況に鑑み出席しない旨発表した。パホル大統領はShunqin駐スロベニア中国大使の表敬を受け、同大使に、習近平国家主席に対してその旨伝達する書簡を手交した。書簡には、北京冬季五輪の開会式を楽しみにしていたが、新型コロナウイルスのスロベニア及び世界における新たな予想外の拡大を受けて、パホル大統領は2月4日に予定されている五輪開会式には参加しないことを決定したと記載されていた。また、感染が収束した際には本年中に会いたいと記載されていた。

●ヤンシャ首相のインドに関する発言【15日】

ヤンシャ首相は、インド紙エコノミック・タイムズに対し、スロベニアはインドを「スロベニアとEU全体にとって重要なグローバル、まさに戦略的パートナー」として見ていると述べた。また、ヤンシャ首相は、2021年5月のEU・インド非公式首脳会談が、「民主主義、自由、法の支配、人権の尊重という共通の価値観に支えられたEU・インド戦略的パートナーシップを強化した。」とし、「我々は、EUがインドの最大の貿易パートナーであり、海外投資家であることを認識しており、新しいデジタル時代には、グローバルなデジタル標準、また5Gに関連し、密接な協力が必要であることを承知している。」と述べた。

●ヤンシャ首相の中国、台湾に関する発言【18日、20日】

ヤンシャ首相は、インドの放送局Doordarshanのインタビューで、スロベニアと台湾が「代表事務所」の設置を協議していると述べた。代表事務所は大使館のレベルではなく、「多くのEU諸国がすでに行っているのと同じレベル」で行われるとした。また、新型コロナウイルスの脅威をタイムリーに世界に知らせることにに関して、「誠実に行動していない」中国に責任を取らせる必要があると、感染拡大への対応について中国に責任ある行動を求めた。

中国外交部は、ヤンシャ首相がスロベニアと台湾が代表事務所の設置を協議していると述べたことを受け、台湾に関するヤンシャ首相の発言を「危険」と評し、強い反発を表明した。趙立堅中国外交部報道官は「台湾は中国の領土の不可分の一部である。中華人民共和国政府は中国全体を代表する唯一の合法的な政府であり、1つの中国の原則は国際関係において普遍的に認められた規範である」と述べた。

20日、パホル大統領は、ヤンシャ首相の中国と台湾に関する発言に反応し、スロベニアと中国が外交関係を樹立して以来、スロベニアは「1つの中国」の

原則を提唱してきており、EUも同原則に縛られていると述べた。大統領府は「台北は20のEU加盟国に代表事務所を置いている。スロベニアにそのような事務所を設置するという考えは新しいものではない。大統領は代表事務所設置について経済関係の奨励とみている。」と述べた。

ポチヴァウシェク経済大臣は、中国はEU外のスロベニアの最大の経済パートナーの1つであり、スロベニアの外交政策は、スロベニアの経済的利益を優先的に考えなければいけないと述べた。

スロベニア中国ビジネス協会は、中国市場に身を置くスロベニア企業は既に中国側からの反応にさらされており、いくつかの企業は契約停止や既に合意した投資の中止に直面していると述べた。

●外交団との新年レセプション【25日】

パホル大統領とヤンシャ首相はブルド・プリ・クラニニにおいて外交団を招待し、新年のレセプションを行い、スロベニアの近隣国全てとの良好な関係を強調した。同レセプションには85名が出席した。パホル大統領はロシア及び中国との誠実な関係について言及し、スロベニアはロシアが脅しを控えることを期待しているとした。また、スロベニアが「1つの中国」を支持することを強調し、また台北の貿易事務所は他のEU諸国にもあるようにスロベニアでも歓迎すると述べた。

●スロベニアと台湾が駐在員事務所を開設予定、中国の立場に変化なし【28日】

国民議会の外交政策委員会のグレゴルチッチ委員長によると、ロガル外相は外交政策委員会において、スロベニアと台湾が相互に経済・文化代表事務所を開設する意向であると述べた。ロガル外相は、ヤンシャ首相の台湾に関する発言によって召集されたセッションに向かう際、スロベニアの「一つの中国」に対する立場が変わったわけではなく、我々の立場から乖離していないと述べた。

経済

【経済一般、指標・統計】

●エコノミスト誌による評価【5日】

エコノミスト誌は、OECD加盟国の一部が新型コロナウイルス危機の経済的側面にどれだけうまく対処したかのランキングを発表し、スロベニアは23か国中2位にランクされた。同ランキングは、GDP、債務、投資、家計の可処分所得の伸び、2019年の第4四半期と2021年の第3四半期の経済指数等を比較して作成されたもの。

●最低賃金【5日】

2021年のインフレを受け、2022年1月1日付けでスロベニアの最低賃金は昨年比4.9%増の1,074ユーロ(グロス)となった。クラリ労働大臣は、昨年の消費者物価の上昇率と整合するように最低賃金を調整したと述べた。

【企業、産業の動向】

●トヨタ・ヤリスクロスのカーオブザイヤー受賞【13日】

トヨタのヤリスクロス(車種)が2022年のスロベニアのカーオブザイヤーに選出された。30年の同賞の歴史の中で日本車が選ばれたのは初めてとなる。

●鉄道事業者の貨物部門がチェコのパートナーと合弁会社を設立【14日】

スロベニアの鉄道会社Slovenske Železniceの貨物部門SŽ-Tovorni PrometとチェコのEP Logistics International (EPLI)は、地域の大手鉄道貨物・物流プロバイダーになることを目指して、SŽ EP Logistikaという合弁会社で海外市場に進出する戦略提携契約を最終的に締結した。Slovenske Železniceは新会社の51%の株式を保有し、チェコのパートナーは49%を保有することとなる。

●レヴォズ社の新CEOにベレ氏が就任【14日】

フランスの自動車メーカー、ルノーのスロベニア子会社であるレヴォズ社のCEOに、1月1日付でオズカン氏に代わり、ベレ氏が就任した。同氏は同社に30年以上勤務し、2017年から生産担当のディレクターを務めてきた。供給が途絶え、販売も低迷している厳しい時期にCEOに就任することとなる。

●ハンガリーのファンドによるスロベニア企業の株式購入見込み【20日】

デロ紙及びPop TVは、ハンガリーのファンドであるDiofa Asset Managementが、スロベニアの観光業大手のSava社の43%の株式を購入する可能性が高いと報じた。現時点で同株式は米国系のYork Global

Finance Offshoreが保有しており、3, 500万ユーロで売却する意向があると報じられている。

●レヴォズ社、更なる生産削減【21日】

ルノーのスロベニア子会社で、ノヴォメスト市に本拠地を置くレヴォズ社は、世界的な半導体危機に伴う自動車業界の不確実性により、11月中旬に2シフトから1. 5シフトに切り替えたが、4月にはシングルシフトに切り替えて生産を縮小し続ける予定。約450人の労働者が影響を受けることとなる。

●ルカ・コペル、投資促進資金として6, 000万ユーロの融資を受ける【24日】

スロベニア唯一の商業港を運営するルカ・コペルは、投資活動の資金調達のため、NLBおよびインテサ・サンパオロ銀行と6, 000万ユーロのシンジケートローン契約に署名したと発表した。このローンは固定金利で、四半期ごとに分割返済する。返済期間は2023年半ばから2031年末までの予定。ルカ・コペルは、大規模な投資活動を展開している。昨年、コンテナターミナルI岸壁の100m延長工事に着手し、現在も複数の投資が進行中。

新型コロナウイルス関連情報

●1月31日時点におけるスロベニア国内の新型コロナウイルスの感染状況【31日】

1月31日時点において、スロベニア国内で新型コロナウイルスへの感染が確認されている人数は累計722, 768名で、死者は計5, 866名となっている。31日時点での地域別の累計感染者は以下となっている。

地域	感染者数
スロベニア中心部	188, 726
ドレンスカ・ベラクライナ地方	54, 999
サヴィンスカ地方	91, 806
ポドラウスカ地方	107, 892
ゴレンスカ地方	74, 460
ポムルスカ地方	36, 239
オバルノ・クラシュカ地方	36, 608
ゴリシュカ地方	40, 006
コロシュカ地方	23, 320
プリモルスコ・ノトランスカ地方	18, 654
ポサウスカ地方	27, 325
ザサウスカ地方	18, 318

社会・文化・スポーツ

【文化・生活等】

●2022年にスロベニアで最初に生まれたのは女の赤ちゃん【1日】

新年のスロベニアでの最初の新生児は、リュブリャナ産科病棟で真夜中の1分後に誕生した、体重2,710グラム、体重50センチのリラという女の赤ちゃん。ほぼ同時に、マリボルでもリナという女の赤ちゃんが誕生した。パホル大統領は、両方の女の赤ちゃんの母親を祝福し、新生児が「幸せで、健康で、好奇心が強い」ことを望むと述べた。今年の最初の男の子は、イゾラで午前2時40分に生まれた体重2,890グラム、体重は52センチの赤ちゃんで、ランと名付けられた。

●スロベニア人科学者がシグマ・サイの会長に選出【6日】

スロベニア人科学者でエンジニアのマリヤ・ストロイニク博士が、米国に所在する科学者とエンジニアのための非営利団体で、著名科学者らで構成されるシグマ・サイ (Sigma Xi) Scientific Research Honor Societyの会長に選出された。彼女は本年7月1日から3年間の任期を開始する。彼女は、メキシコにある光学研究センターの著名な教授であり、現在の商用航空機や多くの宇宙船に使用されているCCD技術に基づく光学ナビゲーションシステムの開発で最もよく知られている。

●ボビンレース職人等、ギネス記録への登録に挑戦【8日】

スロベン・グラデツ市のボビンレース職人等が、彼らの工芸品を不滅にする試みを開始した。彼らは、スロベニアの独立30周年を記念して、ボビンレースによるスロベニアの212の自治体の紋章、伝統的ポティツァのイメージ、スロベニアの詩人の肖像画など、千点の作品をボビンレースで制作するというギネス記録を打ち立てようと、プロジェクトを開始した。

●2021年中、リュブリャナ城の訪問者数は増加【21日】

スロベニアで最も人気のあるランドマークの一つであるリュブリャナ城の2021年来訪観光客数は、前年比32%増の46万人以上の観光客が訪れ、そのうち約142,000人がフニクラを利用した。フニクラ利用者数は前年比45%増。いずれの数字も、コロナウイルスの発生年である2020年を上回っているが、それでも運営側にとって記録的な年であった2019年を大幅に下回っている。訪問者のうち63%が海外からで、そのほとんどがドイツからであった。

●スロベニア人イラストレーターのソットラー氏、『バンビ』英語版の挿絵を担当【24日】

オーストリアのユダヤ人作家フェリックス・サルテンが1923年に書いた「バンビ」の新英訳版の挿絵を、スロベニアの著名なイラストレーターであるアレンカ・ソットラー氏(63歳)が提供した。今回新たに出版される英訳では、原作はディズニーの映画で多くの人が見たよりもずっと暗い物語だということが改めて描かれている。1928年に出版された最初の英訳では、この物語のユダヤ人としての側面が省かれ、ディズニーはそれをもとに人気アニメーションを制作した。ソットラー氏はSTAの取材に対し、原作はオーストリアが第三帝国に併合される前にウィーンで始まったユダヤ人迫害についての寓話的な物語であったと語っている。今回の翻訳者であるザイプス氏は、この本の内容をより鮮明にするために、ソットラー氏にイラストを依頼、彼女は3年がかりで11枚のモノクロの挿絵を完成させた。

●農家ら野生動物による被害を警告【31日】

スロベニア森林局は野生動物による被害が年間40万から80万ユーロに上ると推定しており、農家はその深刻さを指摘している。最も被害が大きいのは北東部のポムリエ地域で、イノシシとシカによる被害が最も多い。

【スポーツ】

●高梨沙羅が2回目のリュブノイベントで優勝【1日】

1日、リュブノで開催されたスキージャンプ・ワールドカップ第9戦において、日本の高梨沙羅選手が優勝、続いてスロベニアのボガタイ選手が2位を獲得した。

●スキージャンプ・ワールドカップ団体戦でスロベニアが優勝【15日】

15日にザコパネで開催された、北京オリンピック前最後のチーム競技となった、スキージャンプ・ワールドカップにおいてスロベニアは、2位のドイツと3位の日本に約70ポイントの差をつけて優勝を果たした。スロベニアチームは、ロブロ・コス、ピーター・プレウツ、ティミ・ザイツ、アンジェ・ラニシェクの4名チームで戦い、プレウツ選手が133.5メートル、ラニシェク選手が129メートルのジャンプを決め、ドイツに約30点差をつけて第1ラウンドを終えた。第2戦では、プレウツ選手が140.5メートルのジャンプを披露し、ラニシェク選手が同じ距離で最後のジャンプを決めた。

●スキージャンパー、ラニシェクがワールドカップで2位入賞【23日】

スロベニアのスキージャンパー、ラニシェク選手(25歳)は、ドイツで開催されたスキージャンプ・ワールドカップ大会において、2位入賞を果たした。彼にとって

今シーズン3回目の連続表彰台であり、キャリア11回目の表彰台でもあった。現在、ラニシェク選手はワールドカップ総合ランキングで5位に浮上している。

●スロベニアのスキージャンプ選手が混合競技を制す【28日】

スロベニアは、ドイツのヴィリンゲンで開催されたスキージャンプ・ワールドカップの混合チームで優勝した。この大会は、ラージヒルで開催された初めての大会で、この方式でのオリンピック前の最後の試練となった。エマ・クリネツ、セネ・プレウツ、ウルシャ・ボガタイ、アンジェ・ラニシェクの4選手は、オーストリアに62.9ポイントの差をつけて優勝した。この結果、スロベニア混合チームは冬季五輪の優勝候補に躍り出た。

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。

https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_si/Zivljenje_na_Japonskem.html

【領事班からのお知らせ】

●海外に住んでいる人が、外国にいながら国政選挙に投票できる制度を「在外選挙制度」といい、これによる投票を「在外投票」といいます。在外投票ができるのは、日本国籍を持つ18歳以上の有権者で、在外選挙人名簿に登録され、在外選挙人証を持っている人です。在外選挙人証の申請から受け取りまでには通常2か月程度の期間を要しますので、早めの申請を行ってください。

●本年4月1日より、有効期間10年の旅券の発給申請ができる年齢が、これまでの20歳以上から18歳以上に引き下げられます。また、旅券の発給申請に当たり親権者の同意が不要となる年齢も20歳から18歳に引き下げられます。

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。(※インターネットで提出をされると、変更届・帰国届けもオンラインで手続きできるため、たいへん便利です。)

また、スロベニア国内での引っ越し、第三国へ転出した場合や、日本に帰国した場合には、在留届の変更届、帰国／転出届を必ずご提出ください。

【外務省オンライン在留届】: <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>

●新型コロナウイルス: 引き続き最新情報を入手し、感染予防に努めてください。当館HPでは、新型コロナウイルスに関するスロベニアの出入国規制などについてまとめたものを公開していますのでそちらもご覧ください。なお、規制は突然変更となる場合がありますので、最新情報についてはスロベニア当局にご確認いただくようお願いいたします。

【当館まとめページ】https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00027.html

【参考情報】

1. 外務省海外安全ホームページ

本サイトでは、各国・地域での新型コロナウイルスの発生状況、新型コロナウイルス(日本からの渡航者・日本人に対する各国・地域の入国制限措置及び入国・入域後の行動制限)等の情報を掲載しています。

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

2. たびレジ簡易登録

本サービスは、メールアドレスとメール配信を希望する国・地域を選択するだけで、当該在外公館から領事メールを受信することができます。ぜひご活用下さい。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/simple/register>

3. スロベニア国立公衆衛生局は、国内状況や感染予防の方法等について公開しています。

<https://www.nijz.si>

(主にスロベニア語)

4. スロベニア政府が、新型コロナウイルスに関する特設サイトを開設しました。コロナウイルスに関連した保健省の特設電話番号はこちらに掲載されています。

<https://www.gov.si/en/topics/coronavirus-disease-covid-19/>

5. 新型コロナウイルス感染症に備えて ～一人ひとりができる対策を知っておこう～（首相官邸）

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html>

6. 新型コロナウイルス感染症に関する情報について（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

7. リュブリャナ空港ホームページ

<https://www.fraport-slovenija.si/en.html>

8. スロベニア政府の下記のツイッターアカウント等で、随時情報発信が行われておりますので、こちらもご確認ください。

●政府（英語）：<https://twitter.com/govslovenia>

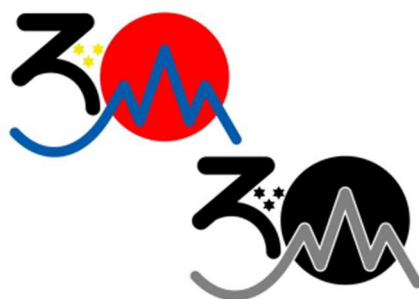
●政府（スロベニア語）：<https://twitter.com/vladars>
（英語版と若干内容が異なります。）

●外務省：<https://twitter.com/mzzrs>
（主にスロベニア語）

●保健省：<https://twitter.com/minzdravje>
（主にスロベニア語）

【広報文化班からのお知らせ】

●日スロベニア外交関係樹立30周年記念ロゴマーク決定！



30周年ロゴマークには、スロベニアを象徴するトリグラウ山から昇る「日の出」をイメージしてデザインされ、周年数である30という数字とスロベニアの国旗にある3つの星、日本の国旗の象徴である太陽とスロベニアの象徴であるトリグラウ山が重なり合って美しく輝き、未来を照らすという思いが込められています。

このロゴマークは、「日・スロベニア外交関係樹立30周年記念事業」として認定される交流事業や文化事業などにおいて使用することができます。ロゴ使用に関するお問い合わせは、当館までご連絡ください。

●スロベニア語字幕付 Japan Video Topics 配信中

当館 YouTube チャンネルにおいて、日本の文化や技術を紹介する Japan Video Topics のスロベニア語字幕版（英語音声）を配信しております。

Embassy of Japan in Slovenia – YouTube

●最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia/>